

営農情報

第110号平成23年8月18日発行

(水 稲)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育状況

梅雨明けが早く、その後高温・多照であったため、水稻の生育は順調です。茎数は確保され、ヒノヒカリの出穂期は平年並と予想されます。

2 水管理

- (1) 穂ばらみ期～穂揃い期は、水を最も必要とする時期なので水をためます。また、高温障害対策として、穂揃い後2週間は、水のかけ流しを行いほ場内の温度を下げましょう。その後は田面が白く乾かないよう、間断かん水を行って健全な根を保ちましょう。
- (2) 登熟期間の水のためっぱなしは、根の痛みを助長するとともに倒伏しやすくなります。また、田面の乾かしすぎは、充実不足等の原因になるので間断かん水を行いましょ。
- (3) 落水時期は、コンバイン収穫に支障のない限り出来るだけ遅くし、高温障害を防ぎます。目安として、刈り取りの7日～10日前に落水します。

3 病虫害防除

- (1) 秋ウンカ、コブノメイガともに、昨年より少なくなっています。
- (2) 基本防除は、下表のとおり、出穂直前～出穂期に行います。ただし、晩生品種で害虫の多い所では、必要に応じトレボンやジョーカーなどで補正防除を行いましょ。
- (3) カメムシ類による斑点米が等級低下の原因になっています。補正防除として、出穂10日後を目安に、キラップ(粉剤、フロアブル)を散布しましょ。

品種	基本防除	薬剤	使用量
ヒノヒカリ	8月25 ～31日	(粉) ビームトレモンセレン粉剤DL ブラシンフロアブル	⇒ 4 kg/10a
あきさやか ヒヨクモチ	9月1 ～8日	(液) トレボン乳剤 モンカットフロアブル	3剤混用 { 1000倍 2000倍 1000倍

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょ!